

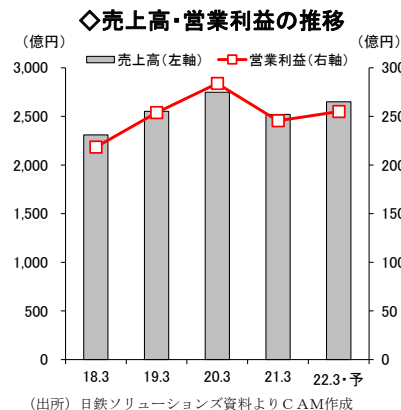
企業ニュース 日鉄ソリューションズ

(東証1部：2327) <https://www.nssol.nipponsteel.com>

作成者：村上大志

日本製鉄のシステム開発・運用部門が源流のS I

1980年設立。世界最大規模の鉄鋼メーカーである日本製鉄(5401)のシステム開発・運用部門を源流とするS I(システムインテグレーター)。24時間365日の連続操業や複数工程の一貫した最適化など、製鉄業特有の極めて厳しい製造条件の下で高度なITソリューションを50年以上にわたり企画・開発・運用してきたことが強み。カバー業種は幅広く、製造業をはじめ、流通業や金融業など多岐にわたる。21.3期のサービス・業種別売上高構成比は業務ソリューション52%(産業・流通・サービス27%、金融13%、公共公益他12%)、サービスソリューション34%(ITインフラ13%、鉄鋼21%)、子会社等14%。中期事業成長目標(22.3期-26.3期)では、連結売上高年平均成長率5-6%を掲げる。



業績は堅調、受注高も回復傾向

22.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は売上高が655億円、前年同期比16%増、営業利益が71億円、同40%増。高収益案件の増加や人員稼働率の改善で営業利益率は10.9%、同1.9ポイント改善した。業務ソリューションの売上高が369億円、同28%増と業績をけん引。金融向けで規制対応案件が堅調に推移したことに加えプロダクト販売が拡大したほか、官公庁向けの基盤構築案件なども増加した。サービスソリューションの売上高は214億円、同3%増。日本製鉄グループ向けが増加した。受注高は587億円、同19%増だった。

22.3期の会社計画は売上高が2,650億円、前期比5%増、営業利益が255億円、同4%増。会計方針の変更に伴い、今期から工事進行基準の適用範囲を拡大している。業績への影響は上期プラス、下期マイナスに働くが通期での影響はニュートラルとのこと。顧客のIT投資への意欲は高く、新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで戻っている模様。受注高は順調に回復しており、特にDX(デジタルトランスフォーメーション)を積極的に進めている日本製鉄向けで増加している。金融の好調は、上期中は続く見通しを示しており業績への貢献が見込まれる。

[株価動向・投資判断]

受注高の回復に伴い、人員稼働率も改善傾向が続いている。第1四半期の会社計画に対し売上高、営業利益ともに上回って着地しているとのことで、通期計画の上方修正に期待したい。

<2327 NSSOL 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
20.3	274,843(8)	28,387(12)	28,275(10)	18,552(11)	202.8	65.00
21.3	251,992(▲8)	24,549(▲14)	25,101(▲11)	16,982(▲8)	185.6	52.50
22.3 予	265,000(5)	25,500(4)	26,000(4)	17,100(1)	186.9	56.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)

株価(2021/8/20)	3,620円
年初来高値(高値日)	3,880円(21/8/2)
同安値(安値日)	3,030円(21/1/4)
予想P E R(22.3予)	19.4倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,014.9円
P B R	1.80倍
予想配当利回り	1.55%
(1株当たり配当金年56.00円)	
R O E(21.3)	10.3%
発行済み株式数	9,150万株